

中国における幸福感の研究状況

李 榮[†]

訳：宮川英一^{††}

Research Activities on Well-being in China

Li Rong

translator: Hidekazu Miyagawa

I. 中国国内における幸福感研究の基本的状況

1980、90年代より、中国国内の研究者は幸福感について関心を持ちはじめた。まず初めに幸福感と幸福指数概念を中国に取り入れた研究者は、奚愷元教授である。幸福感に関しての系統的な研究の歴史は中国においてはまだ浅いが、その成果を取り入れたものは多い。あらゆる集団を研究対象とするが、とりわけ集団としての大学生を対象とした研究がもっとも多く、ついで高齢者や中学・小学生を対象とした研究が挙げられよう。

中国における最大の研究データベースであるCNKIをつかい、「幸福感」を含むワードで検索をすると9,119の文献情報がヒットする。そのなかでもっとも早期に幸福感に言及した文献は1991年のものであるが、それは日本人の幸福感の情状を紹介したものである。24年間の研究を概観すると、おおよそ4段階に分けられる。1991-2002年は萌芽段階にあたり、研究成果の数量がもっとも少ない。2003-2006年は初歩段階にあたり、文献の数量が漸増したがその数は300篇以下である。2007-2010年は発展段階にあたり、前段階に比して2-3倍に文献の数が増大した。2011-2014年には、爆発的な発展段階となり、毎年、文献の数は年をおうごとに倍増し、年間1,500件前後を維持している。最も文献数の多い時期は、2011年で文献数は1,649件である。

幸福指数の研究は幸福感の研究よりもわずかに少ないが、その増大傾向は基本的には同様であり、2011年には最高値の1,565件に達した。また、幸福感に関する研究を3

[†] 四川師範大学経済与管理学院教授・法学博士

^{††} 専修大学ソーシャル・ウェルビーイング研究センター ポストドクター

[受付日] 2014年12月31日 [受理日] 2015年1月30日

つの領域に細分するならば、主観的幸福感の研究が最も多く、次いで心理的幸福感が続く。最も少ないものが社会的幸福感である。上記と同様の方法でCNKIにより研究文献を検索すると、主観的幸福感をキーワードとした文献のヒット数は3,254件であり、心理的幸福感の場合は154件、社会的幸福感の場合は過去8年間でわずかに、34件に止まる。

Ⅱ. 幸福感研究の視角

(i). 研究報告の主題

1. 幸福感指数調査

(1) 「中国20城市居民幸福感」調査報告

2012年9月12日、北京大学社会調査研究中心と荷人寿保険有限公司（民間保険会社：訳者注）とが連合で「中国20城市居民幸福感」調査報告を発表した。また、中国公共経済研究会と国家行政学院経済学部とは、人民網（インターネット・サイト：同）において連合で「中国幸福城市評価体系課題」と中国幸福感都市順位を発表した。

(2) 中国幸福小康指数調査報告

雑誌『小康*』は、精華大学媒介調査実験室と共同で2010年より毎年、全国規模の「中国幸福小康指数」調査を実施し、同誌上で「中国幸福小康指数」を発表している。2014年のデータに限定してみると、61.2%の被調査者が現在、自分の生活は比較的に幸福であると感じていると回答しており、6.2%の被調査者が現在、自分の生活は非常に幸福であると感じていると回答した。自分はまったく幸福ではないと感じていると回答したものは1.8%を占め、自分はそれほど幸福ではないと感じていると回答したものは、全体の13.7%であった。また、17.1%の被調査者は自分が幸福であるか不幸であるか分からないと回答した¹。「中国幸福小康指数」調査では、心身の状況の満足度、家庭生活の満足度、社会関係の満足度、生活の質（QOL）の満足度や社会環境の満足度などの分野にわたって調査をおこなっている。「2014 中国幸福小康指数」の測定結果では、公衆の家庭生活における満足度は最高値の評価を示しているが、社会環境における満足度は最低値を示している。

* [訳注] 中国語の「小康 (xiao kang)」とは、家庭の経済状態などにおいてある程度は裕福であることを示すコトバであり、鄧小平が使用した政治用語のひとつである。「温飽」(衣食にたいする要求をぎりぎり満たす程度)の次にくる消費水準を示す。

¹ 鄂璠「中国人的幸福之道」(『小康』(14)、2014年)、32-36頁。

[表1] 2011-2014年度中国幸福小康指数

| | ウェイト | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------------|------|--------|--------|--------|--------|
| 心身の状況の満足度 | 20 | 75.6 | 75.7 | 75.9 | 77.0 |
| 家庭生活の満足度 | 20 | 85.3 | 85.5 | 85.8 | 86.7 |
| 社会関係の満足度 | 20 | 82.2 | 82.3 | 82.5 | 82.9 |
| 生活の質（QOL）の満足度 | 20 | 83.5 | 84.0 | 84.4 | 84.5 |
| 社会的環境の満足度 | 20 | 72.7 | 72.8 | 72.9 | 72.6 |
| 幸福小康指数 | 100 | 79.9 | 80.1 | 80.3 | 80.7 |

（典拠：鄂璠「中国人的幸福之道」（『小康』（14）、2014年）、33頁

(3) 「全国各地幸福指数」数拠（データ）報告

2013年、和讯網（インターネット・サイト：記者注）は「全国各地幸福指数」報告を発表し、香港、マカオ、台湾およびチベット自治州を除いた30の都市の幸福指数を順位づけした。結果では、江西省、湖南省、内モンゴルが幸福指数順位のトップ3であり、広東省は14位、北京は23位、天津、上海はそれぞれ29位、30位（最下位）であった。

研究報告のデータは、5つの項目についてそれぞれ一定の公式により処理をほどこしている。具体的には、A「就業と物価指標」、B「房價承擔指標」、C「稅收負擔指標」、D「城鄉差距指標」やE「空氣質量指標」の5つであり、それらのデータを相乗して同指数を算出している。

[図1] 幸福指数の計算公式*



* [記者注]：[図1] 幸福指数の計算式は以下のとおり。

- A「就業と物価指標」= $\frac{\text{給与増加率}}{\text{失業率} \times \text{CPI（消費者物価指数）増加率}}$
- B「房價承擔指標（住宅價格負擔指標）」= $\frac{\text{住民の可処分所得}}{\text{住宅價格}}$
- C「稅收負擔指標（担稅指標）」= $\frac{\text{GDP}}{\text{稅收}}$
- D「城鄉差距指標（都市農村價格差指標）」= $\frac{\text{農村居住者的收入}}{\text{都市居住者的收入}}$
- E「空氣質量指標」= 空氣的質が2級以上に達した日數の年間比率
- 【計算式】： 幸福指數 = {A×B×C×D×E}

[表2] 各省の幸福指標一覧表

| No. | 省・特別市別 | 就業と物価指標 | 税収負担指標 | 城郷差距指標 | 税収指標 | 空気質量比率(%) | 幸福指標 |
|-----|--------|---------|--------|--------|-------|-----------|------|
| 1 | 江西 | 1.10 | 0.14 | 0.21 | 15.06 | 95.07% | 0.44 |
| 2 | 湖南 | 0.71 | 0.16 | 0.19 | 21.49 | 93.42% | 0.42 |
| 3 | 内蒙古 | 0.79 | 0.24 | 0.16 | 14.57 | 95.07% | 0.42 |
| 4 | 河南 | 0.68 | 0.16 | 0.20 | 21.32 | 87.12% | 0.39 |
| 5 | 山東 | 0.77 | 0.13 | 0.22 | 17.43 | 87.67% | 0.34 |
| 6 | 吉林 | 0.82 | 0.11 | 0.22 | 16.93 | 94.52% | 0.31 |
| 7 | 河北 | 0.57 | 0.16 | 0.20 | 18.18 | 87.67% | 0.29 |
| 8 | 福建 | 0.99 | 0.09 | 0.23 | 14.00 | 98.63% | 0.27 |
| 9 | 海南 | 1.69 | 0.10 | 0.18 | 8.53 | 100.00% | 0.26 |
| 10 | 安徽 | 0.87 | 0.15 | 0.16 | 13.81 | 83.01% | 0.24 |
| 11 | 貴州 | 1.00 | 0.19 | 0.11 | 11.00 | 95.62% | 0.23 |
| 12 | 黒竜江 | 0.54 | 0.11 | 0.24 | 16.96 | 86.85% | 0.22 |
| 13 | 江蘇 | 0.84 | 0.10 | 0.24 | 11.91 | 86.85% | 0.21 |
| 14 | 広東 | 0.87 | 0.10 | 0.21 | 11.70 | 98.63% | 0.21 |
| 15 | 湖北 | 0.57 | 0.11 | 0.19 | 18.40 | 83.84% | 0.18 |
| 16 | 山西 | 1.03 | 0.11 | 0.14 | 12.87 | 84.38% | 0.18 |
| 17 | 雲南 | 0.84 | 0.15 | 0.14 | 10.08 | 100.00% | 0.18 |
| 18 | 重慶 | 0.73 | 0.14 | 0.16 | 11.36 | 88.77% | 0.17 |
| 19 | 陝西 | 0.70 | 0.16 | 0.13 | 13.40 | 83.56% | 0.17 |
| 20 | 四川 | 0.66 | 0.12 | 0.16 | 13.68 | 88.22% | 0.16 |
| 21 | 浙江 | 0.66 | 0.12 | 0.29 | 10.95 | 91.23% | 0.15 |
| 22 | 新疆 | 1.02 | 0.13 | 0.14 | 11.14 | 75.62% | 0.15 |
| 23 | 北京 | 2.02 | 0.09 | 0.20 | 5.69 | 78.36% | 0.15 |
| 24 | 遼寧 | 0.57 | 0.12 | 0.22 | 11.25 | 90.96% | 0.15 |
| 25 | 青海 | 0.63 | 0.17 | 0.11 | 13.84 | 86.58% | 0.14 |
| 26 | 甘肅 | 0.56 | 0.16 | 0.12 | 17.67 | 66.85% | 0.13 |
| 27 | 江西 | 0.38 | 0.12 | 0.16 | 18.18 | 96.16% | 0.12 |
| 28 | 寧夏 | 0.54 | 0.16 | 0.13 | 11.87 | 91.23% | 0.12 |
| 29 | 天津 | 0.46 | 0.10 | 0.22 | 11.26 | 87.67% | 0.10 |
| 30 | 上海 | 0.78 | 0.08 | 0.21 | 6.05 | 92.33% | 0.07 |

(注：データには香港、マカオ、台湾およびチベット自治区を含まない。データ・ソースは和迅数拠のレポートによる。：中国各地の幸福指数は、以下。

<http://news.hexun.com/2013/6409/152085201/>, 2015年1月6日アクセス)。

2. 城市（都市）幸福感調査

(1) “中国最具幸福感城市（中国で最も幸福感が得られる都市）”の調査・選定活動

新華社の雑誌『瞭望東方週刊』は中国市長協会と提携し、共同で「中国城市発展報告」を主管した。現在まで8年間にわたって続いている、今もっとも影響力と公的な発信力を持つ調査選定活動である。この調査活動では「中国城市幸福感、文化軟評価体系」を制定し、都市の文化的な魅力、都市の文化的実力、都市の文化伝播力、都市のイメージ、都市幸福感をふくめた六大体系・70指標を創りだした。

(2) “CCTV 経済生活大調査（2011-2012）”

同調査は、国家統計局、中国郵政集团公司、北京大学国家発展研究院、北京第二外国語学院中国閑暇経済研究中心と提携し、4ヶ月以上の調査期間で中国城市の幸福感を都市ごとに順位づけした。調査結果では、ラサがトップであり北部の都市は南部の都市に比べて幸福感が強く現れた。2012年8月19日、「2012 幸福城市市長フォーラム」ではデータが発表され、ラサ、太原、合肥の住民が上位3位を冠した。

3. 央視（中央電視台, CCTV）幸福感調査分析

(1) 2006-2009年中国幸福感分析

2006年CCTV 経済生活大調査が開始され、調査課題グループは同時に幸福感についても調査を開始した。おもに主観的な幸福感についての設問を盛りこんだ調査紙を採用して、標準的な幸福感を計測する研究をすすめる、国家統計局全国経済センサスのサンプリング方法を参照し、2006-2009年にかけて全国31省、直轄市、自治区をふくめて104の都市と300の県にアンケート紙を配布して調査をおこなった。毎年の調査では10万のサンプルサイズを計画し、その回収率と有効回答数は両者とも80%以上である。これを基礎として、(CCTVの調査課題グループは)『中国経済週刊』に誌上発表の権限を与えて、「2006-2009年中国幸福感分析」を発表した。国家統計局総経済師である姚景源は、CCTV 経済生活大調査について、「統計学上はもちろん、その対象とした範囲や回答者グループの構造分析からみても、これは十分に我が国における民衆全体の基本的な状況を代表している」と評している。

(2)

2011年1月12日、CCTV 財経チャンネルの中国財経報道コラムが主管した「CCTV2010 経済生活大調査」で、調査結果を全国に向けて発表した。アンケートに答えた8万6千人の公衆のなかで、都市（城鎮）に居住する者は77.2%の比重をしめ、農村に居住する者は22.3%を占めた。両者を区別せず、回答者全体を収入階層別に分けるとそれぞれ、世帯（家庭）の年収が2万元以下のものが40.4%、同収入が2～5万元のものが44.6%、同収入が5～10万元のものが12.4%、同収入が10万元以上のものが2.6%を占めた。そのうち、44.7%のものが生活における幸福感について、幸福であるまたは非常に幸福であると回答し、自分は不幸であるまたは非常に不幸であると

回答したものは11.1%であった。²

4. 2012年中国家庭幸福感熱点問題調査

この調査は、中国人口宣伝教育中心、瞭望週刊社、社会科学院人口与労働経済研究所などが共同で調査を完成させた。調査期間は7ヶ月におよび、北京、浙江、安徽、甘肅、河南、四川、遼寧の7つの省から、6,000以上の世帯（原文は家庭：訳者注）を抽出するサンプル調査をおこなった。

調査では、10%の被調査者が満点と回答し、83.2%の被調査者が家庭にたいする幸福感が標準的な評価より0.6度高く、41.9%の世帯が0.7度高く、全国平均水準は、0.69度であった。これらは、大多数の世帯が幸福であると感じていることを示している。³

中国の世帯における幸福感に影響をあたえている主要な要因は、その相対的影響力の大小の順に示すと以下のとおりである。まず、家族の健康（79.25%）、つぎに夫婦円満（56.48%）、住居の自己所有（52.56%）、子女の成長（49.42%）、心のバランスの良好（41.63%）がづく。

[表3] 中国の家庭の幸福感に影響を与える主要因子

| 因子 | 割合 |
|-----------|--------|
| 家族の健康 | 79.25% |
| 夫婦円満 | 56.48% |
| 住居の自己所有 | 52.56% |
| 子女の成長 | 49.42% |
| 心のバランスの良好 | 41.63% |

一方で、中国人の家庭にとって非常に重要な要素である住居の状況と収入の状況とは、それぞれ家庭の幸福感に与える影響の程度が大きく異なった。

[表4] 住居の状況と家庭における幸福感スコアの割合

| 住居の状況 | 割合 | 幸福感スコア |
|--------|--------|--------|
| 非常に良い | 10.08% | 7.32 |
| 良い | 33.95% | 7.00 |
| 中間 | 48.87% | 6.82 |
| 貧しい | 6.24% | 6.47 |
| 非常に貧しい | 0.86% | 5.48 |

² 胡大源、夏雨春、楊子宵「幸福在哪里？——CCTV 経済生活大調査発現的中国幸福観」（『中国経済週刊』2011年第2期）。

³ 「中国家庭幸福感熱点問題調査結果発布」。
http://news.xinhuanet.com/health/2013-08/01/c_125100911.htm（2015年1月6日アクセス）。

[表5] 収入の状況と家庭における幸福感スコアの割合

| 収入の状況 | 割合 | 幸福感スコア |
|-------------|--------|--------|
| 裕福な家庭 | 21.76% | 7.18 |
| 中層程度の収入の家庭 | 70.31% | 6.87 |
| 貧困家庭 | 7.57% | 6.39 |
| 非常に困窮している家庭 | 0.36% | 5.32 |

(ii). 理論的研究の主題

近年来、我が国の研究者は幸福感の理論的研究においても成果を出しており、それらは2つの分野に帰納的に整理することができる。

1. 幸福感の影響要因の分析

現在の学会では幸福感の影響要因の分析を、都市（市鎮）と農村（郷村）の差異、性別、収入、ライフ・イベント、文化といったいくつかの分野で展開している。

第1に都市と農村の差異について、周翠金らは、都市は交通の便益や福利厚生システム、教育システムなどが農村よりも優れているため、都市居住者の幸福度は農村のそれに比べて高いとする⁴。また、李黎らは、農村の居住者は生活環境が良い。生活にかかわる圧迫感が低いため、農村居住者の幸福感は都市居住者よりも高いと考えている⁵。一方、研究者である肖昕華の研究では、都市と農村の居住者の幸福感の差異はあまり大きくないという結論を導いている⁶。

第2に性別については、徐維東らの研究では、生活スタイル（生活の方向性）が異なるため、女性一般は人と人との関係に左右されるが男性一般は就労により多く影響をうける。そのため男性の幸福感のレベルは女性よりも高いとする⁷。しかし、嚴標濱らは女性の幸福レベルは男性よりも高いと結論づけている⁸。また、張倩妹らの研究は男性と女性との間で幸福感のレベルに差異はないと指摘している⁹。

第3に経済的な収入については、何瑛の研究では収入が高くなればなるほど、多くの物質的な便益を享受することができる。そして、より高い（社会的）地位と権利とを獲得することができるので高い幸福感をえることができるとする¹⁰。他方で嚴標賓

⁴ 周翠金、王洪礼、周涛峰「贵州省大学生主観幸福感研究」（『貴州師範大学学報（自然科学版）』2005年第3期）。

⁵ 李黎、謝敏芳、高益君「大学生主観幸福感と対応方式の相関研究」（『紹興文理学院学報（自然科学版）』2008年第1期）。

⁶ 肖昕華、丁宇「湖南省碩士研究生主観幸福感調査」（『学位与研究生教育』2008年第1期）。

⁷ 徐維東、呉明証、邱扶東「自尊与主観幸福関係研究」（『心理科学』2005年第3期）。

⁸ 嚴標賓、鄭雪、邱林「大学生主観幸福的影響因素研究」（『華南師範大学学報（自然科学版）』2003年第2期）。

⁹ 張倩妹、邢占軍「当前城市青年群体主観幸福感研究」（『山東省青年管理幹部学院学報』2008年第3期）。

¹⁰ 何瑛「主観幸福感概論」（『重慶師院学報（哲学社会科学版）』1999年第4期）。

らの研究では、経済的な収入は人々の基本的な生活需要を満足させるが、金銭を獲得することが反復的に幸福感をえることに繋がらず、経済的な収入の幸福感にたいする影響はあまり大きくはないとする¹¹。

第4にライフ・イベントについては、王極盛らは、初中（日本の中学校に相当：訳者注）学生の幸福感と登校忌避・学習上の重圧感・教師との緊張関係、父母からの「処罰」など4つの生活上のイベントとには負の相関関係があることを発見した¹²。また、王平らは貧窮大学生グループにたいする研究の結論で、生活上の貧困は貧窮学生の幸福感にたいする影響が極めて大きいと論じた¹³。しかし、嚴標賓らの研究では、いくつかのライフ・イベントは大学生にたいして明白な影響は与えないとする¹⁴。

第5に文化については、嚴標賓らは中国大陸、香港、アメリカの3つの地域における大学生の幸福感についての比較研究を通じて、彼らの生活満足度、ポジティブ感情、ネガティブ感情などの値には顕著な差異があることを発見した¹⁵。また、鄭雪らはオーストラリアへ留学した中国人学生に関する研究において、文化的アイデンティティと価値観（価値取向）が幸福感に影響を与えるとする¹⁶。

2. 幸福感の測定

我が国の研究者も独創的な成果をあげており、主に現在は2つの方法に分けることができる。ひとつは、欧米の尺度を修正・応用したものであり、たとえば、「生活満足度量表（life satisfaction rating scales, LSR）」、「費城老年中心信心量表（Philadelphia Geriatric Center (PGC) Morale Scale）」、「総体幸福感量表（General Well-Being Scale, GWB）」、「積極和消極情感量表（Positive and Negative Affect scales）」、「紐芬蘭記念大学幸福感量表（Memorial University of Newfoundland Scale of Happiness (MUNSH)）」などであり、これらの尺度はおもに欧米のものを基礎にした上で修正を加えてきたものである。もうひとつは、中国にローカライズするよう作られた尺度を用いたものであり、たとえば、「中学生主観幸福感量表（中学生の主観的幸福感尺度）」、「中国城市居民主観幸福感量表（中国都市居住者の主観的幸福感尺度）」、「青少年学生生活満足度量表（青少年・学生の生活満足度尺度）」、「中学教師主観幸福感量表（中学教員の主観的幸福感尺度）」、「総合幸福問卷（総合幸福アンケート）」などである。

¹¹ 前掲、「大学生主観幸福的影響因素研究」、137-142頁。

¹² 王極盛、丁新華「初中生主観幸福感与生活事件的關係研究」（『心理与行為研究』2003年第2期）。

¹³ 王平、施昕強、王暉「西安市貧困大学生人格和幸福感的關係」（『現代生物医学進展』2008年第3期）。

¹⁴ 前掲、「大学生主観幸福的影響因素研究」、137-142頁。

¹⁵ 嚴標賓、鄭雪、邱林「中国大陸、香港和美国大学生主観幸福比較」（『心理学探新』2003年第2期）、59-62頁。

¹⁶ 鄭雪、王磊「中国留学生的文化認同、社会取向与主観的幸福感」（『心理發展与教育』2005年第1期）。

総体的には現在、中国（大陸）における幸福感研究の対象はおもに集団としての大学生や高齢者、中学・小学生などに集中していると言える。企業従事者の幸福感にたいする研究は相対的に不足しており、また、参考の価値のある文献も多くはない。研究理論やその方法についてはおもに、欧米の文化や理論を基礎に解釈・測定をすすめており、中国の特色を反映した研究成果は少ないと言える。また、心理学の分野にわたる研究が多い一方で、その他の分野における関心は総体的に少ない。加えて、研究の重点が主観的な幸福感の問題に集中しており、社会的な幸福感についての研究は始まったばかりである。個々の研究者は大学生や農民工の社会的幸福感を測定し、その影響の要因の分析を試みている。